

## 第5回室蘭市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定協議会議事録

1. 開催日時 平成23年12月2日（金）14:00～
2. 開催場所 室蘭市役所本庁舎2階3号会議室
3. 出席委員 加藤会長、安田委員、内池委員、立山委員、石川委員、井脇委員  
小林與志美委員、小林昌樹委員、吉田委員、藤本委員、前田委員  
事務局 國枝介護福祉課長、小栗主幹[介護保険]、舩田主幹[福祉計画]、  
清水健康づくり課主幹、赤石福祉総務係長、滝沢介護保険係長  
傍聴

### 4. 会議内容

#### 事務局

○第5期介護保険事業計画についてまとめ・・・説明

#### A 委員

定期巡回・随時対応型訪問介護看護で、二つの法人が意向を示されているということですが、平成26年度から開始する見込みですか。

#### 事務局

国も介護報酬、運営基準等について（現在）明確な指針は出ていない。26年度からは、今のところ未定ではあるが参入の意向を示されていることについては、導入がスムーズに行くように支援していく。

#### A 委員

複合型サービスのほうが、参入する法人があるのではないかと考えていたが、全くないということで驚いている。

#### 事務局

複合型サービスについては、国ではいろいろなサービスの組み合わせを考えています。まず第一に小規模多機能型居宅介護との組み合わせということで考えられていますし、そうすると室蘭市では四つの小規模多機能型居宅介護の事業所がありますが、どの事業所もグループホームと併設しているので、現状では看護師の確保は難しいと考えます。

## A 委員

どこかの訪問看護ステーションと提携を結んでというわけにはいかないのか。

## 事務局

可能です。

## B 委員

複合型サービスは、進展があれば新たな事業展開も進めていくということで、なかなか踏み切れない状況であるとみている。

小規模多機能型は経営が難しく、看護職員の確保も難しい。訪問看護ステーションも廃業してしまうところもあるので難しい。

周りの状況をみながら進めて行くのが現状では妥当だと思う。

## 会長

定期巡回・随時対応型訪問介護看護は、訪問介護と訪問看護を一体化したようなサービスであり、一般市民にも理解される。

複合型サービスは、現在、小規模多機能居宅介護は四つあるが、グループホームと併設しているわけで、専門家でなければ詳しくわからないところがあり、更に複合型が入るとなると、皆さんに浸透するのに多大な時間が掛かると思う。まだ手をあげているところがないので、今後の一つの課題。

## C 委員

アンケートと連動してると思うが、地方は地方の実情に即してやっていくしかない。われわれのペースでやっていくべきで、市は現実的な対応をされているので安心している。平成26年度に無理してやらなくても良いと思う。現実的にやっていければ良いと思う。

## D 委員

厚生労働省では、定期巡回型・随時対応型訪問介護看護を推し進めていくようなことを言っていたが、市で緩やかに考えていただいても国のほうでどのようになってしまうかで、振り回されるのでは。

対象者がいかに元気に毎日暮らしていただくかが一番大事。

## 会長

この二つは今後の国の地域包括ケアの推進の一環として思っているのか。

## 事務局

そうです。第5期計画では医療との連携を強く打ち出しているサービスとなっています。

会長

国として、助け合いなど将来的なことを考えた時可能なのか。

E 委員

ボランティアグループと月二回はミーティングをしている。きっかけは、エコ活動。私なりにこういった会議に出ているので、皆さんに声を掛けていろいろ聞いている。

非常にわかりづらい世界だが、室蘭市は前回の日常生活圏域ニーズ調査集計結果・分析で親が二人いて高齢者世帯の社会になっている。老人ホーム、グループホームがたくさんあって、そこに医療との連携があると良い。家の中で診療を受けられるのが理想。

F 委員

看護師が少ない人数でどのように対応できるのか。計画する中で看護師が足りない今の世の中で、この制度自体が成り立つのか疑問。

例えば、すべて介護士が出来るようなシステムに、もっていかなければ出来ないのでは。

G 委員

定期巡回型のサービスは平成26年度より前に行いたいという事業所が出た場合はどうするのか。

事務局

体制が整っているのであれば認める方向で考えている。

H 委員

実施しそうな事業所はありますか。

G 委員

報酬がある程度、見通しがついて事業が出来るという見込みであれば、手をあげる事業所が今よりも多くなってくるのでは。平成26年度より前に少しずつ、サービスが始まってくるのではという予測です。

I 委員

手をあげそうな事業所があるか、予測はつきますか。

G 委員

難しい。

## J 委員

複合型サービスですが、今後実施したいという事業所があれば、医療機関との橋わたしを市でやっていただけると、既存の小規模多機能型居宅介護事業所も実施してみようかと考えるのでは。

## 事務局

支援していきたい。

## 事務局

○介護予防・日常生活支援総合事業について・・・説明

## H 委員

何をどう予防して、どうお金の削減に繋がたら良いか、なかなか難しい問題。いろいろやって問題を起こすよりも、サロンのことをやって、逆にやらないほうが結果として良いという部分が多いのでは。

## B 委員

どのように実施するか不透明な部分があるが、他の市町村の出方を見ながらだと思うが、始めるときには市内の包括支援センターを全部まじえて、どのようにしていくのか話しに参加していければ良い。どのように展開していくのか相談していただきたい。先進的にやりはじめる所の状況を見ながら慎重に取り組んでほしい。

## A 委員

今現在、予防給付を受けている方の分析をして、包括支援センターと市と話し合い、今後良い方向に結び付けられたら良いと思う。地域に合わせた分析をして、事業を展開していかなければならないと思う。

## 事務局

○介護保険サービスの充実について・・・説明

## H 委員

この内容で良いと思う。新設サービスとして平成26年度に一事業所を入れていますが、全体の中で議論していく必要がある。この段階での計画としては、これでいくしかないと思う。

## I 委員

ユニット個室が増えているが、多床室が多いほうが良い。需要と供給の関係、個人の収入のこと、全部含めて考えたとき、その方向で本当に良いのか疑問がある。ある程度の数で選択できるのがベスト。

入所の待機の件だが、入らないケースと入れないケースがある。実際の数字よりも少なく見積もって良いのでは。

## H 委員

入居者の状況は、空いているときには病院に入院していて家に帰っても、自信がない。まずは普段の生活にからだを慣らしたいが、食事の支度等が出来ない。集団の中で（生活し）自信がついたら家に戻って生活したい。家族の受け入れもあり早く退院できたが、そこまでの世話は出来ない。介護施設ではなく、ヘルパーとか介護保険と関係がない過剰な援助サービスもあるので、まずは一人で生活することをやってみるとか、介護保険の認定にはならないが、家族と暮らすのは無理。そういう方が住宅に入っている。今、自分の親を世話は出来ないが、どうしよう行き場の無い利用者も多い。

## 会長

介護保険に基づく施設もあれば、高齢者向け賃貸住宅などがあり、それぞれ事業所の方は、親身なケアをされていると思うが、親をお預けになったりしなければならぬ立場としていかがですか。

## G 委員

こんなに、たくさん種類があるのは知らなかった。

デイサービスに週二回。それも初めての経験だったので何箇所か見たが、中で行っていることが本人にとっては幼稚っぽい。女性にとっては手作業的なことで楽しめる部分もあるが男性にとっては幼稚園。いくつか事業所をまわって違うことをやっているところがあったので、そこにお世話になった。楽しく過ごせれば良いが、お話しするのが好きだったり、周りの方とコミュニケーションが取れる方だと楽しい場所になると思う。父の場合、最初行くのも苦痛だったようだが、動かすところは動かして訓練してもらいたいし、人と話しをしてもらいたかったので、なんとか行ってもらった。

いろいろな事を行うのは難しいと思うが、折角お金を払って行っているので、その時間楽しく過ごせるのであれば気持ちも違うと思う。

## C 委員

家族のことも考えなければならないが、本人がどう考えているかというところで、どういうサービスを望んでいるか。楽しいから行っているという人が、何パーセントなのかということも含めて冷静に考えていく必要があると思う。

## E 委員

介護保険事業とは関係ないが、介護保険を受けないで頑張ろうとボランティア活動に参加できる環境をつくろうかと考えている。

サンプルとして、ボランティア活動ポイント制度。仕掛け人は社会福祉協議会と介護福祉事業所だと聞いている。

メインは、福祉施設、老健施設、病院とか個人と個人のボランティアではなく、そういうところとボランティアをしてほしいニーズをつくりあげて、作業内容に対して一般市民に公開する。それを受けたい人は、社会福祉協議会に登録して、マッチングするとそこへ行き一時間1ポイント。

苫小牧市もそろそろ実施する予定と聞いている。

お金じゃなくポイント制で、やりがいを持つようなことを考えている。

## 事務局

前回の会議で計画の柱・方向性で、元気に暮らすという方向性があり、その中で高齢者ボランティア制度の実施について、社協に事務局を設けて、E委員の話のようなかたちで実施したいというのは考えている。

## A 委員

ユニットは料金が高いが、室蘭市民のニーズに合っているのか。

全体的には、ユニットケアと言われているが、経済的なことからいうと厳しいのでは。

介護付有料老人ホームが、平成26年度に開設の予定ということだが、お金がないと入れない。経済的に厳しい方が多い。

ケアハウスは、その方の収入に応じて金額が決定されているので、ニーズとしてはケアハウスだと思う。

## G 委員

生活保護と同額くらいの年金しか貰っていない方の相談を受けることが多いので、介護保険での施設だけではなく、低料金で利用できるショートステイとか、一時的でも入所できるような施設を市の施策としてやっていただきたい。

会長

平成12年に介護保険が始まり、子供が親を見るということが社会として続いていたが崩壊していき、社会全体で高齢者の介護をする。

例えば、厚生年金や労働保険と同じようなかたちで介護保険。結果的には、福祉であったり、措置であったものが、権利のかたちで移行している。保険として権利になってきている。将来的には権利のほうが先行する。実際には、財源もないので、いろいろな意味で行き詰る。自ら保険を使わないようにしていくことが、最大の国の施策である。その点についても室蘭市として今後、施策にしていきたいと思いますと思う。

事務局

○保険料基準額に対する割合の弾力化・・・説明

会長

室蘭市の介護保険料は、他市町村に比べると高いほうではないですね。

事務局

低いほうです。全道35市ありますが下から数えて8番目です。

会長

どのような理由が考えられますか。

事務局

認定者の率が比較的低い。

会長

今、国も含めて調整しているが、やがて月額5,000円台になるのではと、マスコミ等では言われているが、考えられることですか。

事務局

ますます高齢化が進みます。高齢化が進むと、介護を必要とする方も増えるのではないかとみています。高齢化が進むと、年齢層が上がっていくこともあり、今後必要であれば、施設は整備していかなければならないと思う。そうすると介護保険料に影響してくる。逆に、納める方が減ってくるということになると、それも影響して保険料も上がってくる。

事務局

○将来人口推計・認定者の推計・・・説明

## J 委員

ケアマネジャー自体も室蘭市では少ない。高齢者が多くなっていく中で、ケアマネジャーという存在が、グレイゾーンになってきている。資格を持った人たちが活躍できるように、対策をとらなければ、介護サービス全体を支えていけないのでは。

## 事務局

次回の会議を最終とします。平成24年2月に予定します。